

藤本幸久 監督作品

撮影●栗原良介

録音●久保田幸雄

インタビュアー●影山あさ子

コーディネーター●加藤鈴子、福原顕志

編集●藤本幸久、栗原良介

製作・配給●森の映画社、太秦

2008年/日本/カラー/ビデオ/118分

アメリカ はいつも

crazy as usual

クレージーってか？それが戦争さ！



心の傷とは、静かな声で、かろうじて語られるものだ。
カメラがそれを受け止めるクッションになる奇跡の瞬間、
地獄の淵をのぞきこむ番が、わたしたちに回ってくる。(池田香代子・翻訳家)

アメリカの今は日本の近未来なのか？

日本に数多くある米軍基地。米兵の多くは20歳そこそこの若者たちだ。彼らはどこから来たのか、どこへ帰ればいいのか。そんな問いに導かれて、私たちのアメリカの旅は始まった。延べ200日の取材の中で、多くの人に出会ったが、映画の主人公になったのは、24歳の二人の青年、ダレルとパブロだ。

ダレルはイラク帰還兵。高校生の時は花形野球選手。女の子にもモテモテで、卒業前に娘が生まれる。週に50時間働いても、麻薬を売っても、どうにも暮らせない。最後の手段が陸軍だった。イラクに派遣されて、ある日、迫撃砲で攻撃され、大砲を撃ち返す。英雄になったと思った翌朝、自分が100人のイラク市民を殺してしまったことを知る。

パブロは元海軍兵士。大学に進学したが、バイトを3つ掛け持ちしても、学費が払えず、海軍に入った。横須賀基地に駐留中、妻となる女性・詩織と出会う。ニューヨークのブルックスしか知らずに育った若者にとって、詩織が世界と結ぶ窓となり、パブロはやがてイラク派遣を拒否する兵士となる。

米軍は「志願制」だが、その実態は「貧困徴兵制」だと多くのアメリカ人が言う。「大学へ行くため」「技術を身につけるため」「医療保険のため」多くの若者が軍隊を選ぶ。アメリカの途方もない格差社会の底辺から、若者たちが戦場へと押し出されてゆく。

世界一の経済大国アメリカで、国民の100人に1人、350万人がホームレスになっている。そして、そのホームレスの3人に1人は帰還兵といわれている。多くの帰還兵が、ストリートや森の中に隠れて暮らしている。

人を殺してしまったら、元の自分には戻れない。命令を拒否しても、軍法会議で処罰を受け、大学も、仕事も、保障もすべて失う。

人を殺してしまった若者は、どうやって生きてゆけばいいのか。戦争を拒否した若い夫婦はどうやって暮らしてゆけばいいのか。

貧困、格差社会へと突き進む私たちの国・日本。アメリカの今が、日本の近未来なのだろうか。

監督 藤本幸久

■この映画は、戦争が、守るべき自国民にもたらすあらゆる負の側面をリアルにえぐり出している。戦死、PTSD、貧困、失業、ホームレス、家族の崩壊、社会からの孤立、弱者への暴力。それまで個別に語られてきたそのすべてが、ここでドッキングしている。高遠菜穂子(イラク支援ボランティア)



アデル(イラク派遣女性兵士の母)



シンディ(息子がイラクで戦死)



パブロ(イラク派遣を拒否)と妻・詩織

アッサラーム アライクム
السلام عليكم
あなたの上に平安が訪れますように...



ダレル(イラク帰還兵)



アニータ(ダレルの母)

■多くの映画でヒーローとして描かれる米兵。しかし、悲惨な戦争を経験した者、息子を失った家族の声からは、きれいな事ばかりではない現実が見えてくる。病める軍事大国アメリカの真実を知るために、必見の映画です。山内和彦(映画「選挙」主演)



God help America

海兵隊ブートキャンプ



海兵隊ブートキャンプ



グラウンド ゼロ



海兵隊ブートキャンプ



海兵隊ブートキャンプ

■戦争は人為。そして戦場には人がいる。各々に人生を背負った雑多な生。米軍隊の深奥に迫る本作は、ワシントン政権から連続と続く侵略国家USAの度し難い本質を晒す。全日本人必見！ 中川敬(ミュージシャン/ソウル・フラワー・ユニオン)



NYの反戦集会



トム(ホームレス支援施設スタッフ)



セレーナ(ホームレス支援施設創設者)



デニス(越戦戦争帰還兵)



ハーバート(サマワで認知症で被爆)



ラファイエットの白い十字架

■「戦争」とは、「大学に行きたい」という夢を持った十代の若者に、人を殺させることなのだ。そしてその「貧困による徴兵」は、この国の近い未来の風景と重なるのは私だけだろうか。 雨宮処凛(作家)



カルメロ(空軍基地労働者)



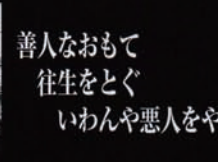
ブッシュ夫妻



スティーブ(アフガン帰還兵)



サージ(元海兵隊員)



善人なおもて 往生をとぐ いかんや悪人をや



新兵募集所に盛り込む人々

■イラクに行くたびに、若い米兵とすれ違う。といっても彼らは戦車や装甲車に乗り、通行人に銃を向けながら進んでいくので、遠くからカメラを向けるだけで。そこに「勝者」はなく、あるのは「疑心暗鬼」だけ。恐怖と緊張の中で「彼らも犠牲者だな」と感じる。西谷文和(フリージャーナリスト/イラクの子どもを救う会)

【沖縄からアメリカへ】2005年「Marines Go Home〜辺野古・梅香里・矢日別」を完成させたドキュメンタリー作家藤本幸久は、沖縄で出会った米兵から感じた「彼らはどこから来たのか? 何故兵士になったのか? それどこに行くのか?」という疑問を追い求め、2006年10月から2008年4月にかけて、計7回のべ200日間のアメリカ取材・撮影を重ね、この作品を完成した。

アメリカばんざい crazy as usual [2008年/日本/カラー/ビデオ/118分] クレージーっか? それが戦争さ!

監督●藤本幸久/製作●森の映画社/共同製作●太秦、連帯ユニオン関西地区生コン支部、「アメリカ-戦争する国の人びと」製作委員会/プロデューサー●小林三四郎/撮影●栗原良介、藤本幸久、中井信介/録音●久保田幸雄/インタビュアー●影山あさ子/コーディネーター●加藤鈴子、福原顕志/編集●藤本幸久、栗原良介/音楽●川端潤/主題曲:「For The Mothers」(作詞・作曲・歌 Betsy Rose)/ナレーター●小林三四郎/字幕●加藤鈴子、影山あさ子/タイトルデザイン●ねこまたや/スタジオ●STUDIO LAMU/PEACH BLUE PEACH/配給●森の映画社、太秦/宣伝●若淵温子/著作●森の映画社(©2008森の映画社)

2008.7月26日(土)より3作品一挙公開! ★「Marines Go Home」は新編集版 ★最終・20:20よりゲストを迎えるトークイベント日あり! 詳細は劇場まで! 共通特別鑑賞券¥1,400、3回共通券¥3,900絶賛発売中!/当日一般¥1,600/大学生¥1,300/中・高シニア¥1,000

【平日】	【日曜日】
10:30~「空想の森」(129分)	10:30~「アメリカばんざい」(118分)
13:05~「アメリカばんざい」(118分)	13:05~「アメリカばんざい」(118分)
15:30~「アメリカばんざい」(118分)	15:30~「アメリカばんざい」(118分)
17:55~「Marines Go Home」(120分)	17:55~「Marines Go Home」(120分)
20:20~「アメリカばんざい」(118分)	20:20~「空想の森」(129分)

ポレポレ東中野
TEL.03-3371-0088
www.mmjp.or.jp/pole2/
JR東中野駅西口改札北側出口より徒歩1分
地下鉄大江戸線東中野駅A1出口より徒歩1分